

厚生文教常任委員会 町民との意見交換会報告書

P T A との意見交換会 テーマ「子どもたちの学習環境整備について」 芽室中学校 上美生小・中学校 芽室西小学校

テーマ	各 P T A との意見交換内容	委員会としての対応
I C T の環境整備と 関連する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末は、これから社会へ巣立つ子どもたちにとって、教育機器の整備は必要である。 ・タブレット端末整備から、今後どのように子どもに還元していくのかが、課題である。 ・タブレット端末で子どもがどんな画面をみているのか。不安もある。コントロールも必要なのかなと思う。 ・覚えることが多くなり、子どもたちも大変かと思う。 ・タブレット端末で視力が悪くなるのが心配。 ・タブレット端末で授業中、子どもが何を見ているかわからない。 ・タブレット端末をどこまで制限するのか、ルール設定と平準化が難しい。 ・ICT はいまやかかせないもの。社会に出て、困らないためにも子どもの頃からしっかり教育してほしい。 ・タブレット端末はコミュニケーションがうまく取れない子どもの声を聞くことができる。 ・コミュニケーション能力の低下が不安である。 ・デジタルになると、子どもがどんな授業を受けていて、なににつまずいているのか見えにくい。 ・家庭にタブレットを持ち帰る際のセキュリティ対策をしっかりしてほしい。 ・ペーパーレスのメリットばかりではなく、デジタル教科書のデメリットの方が心配だ。 ・中学生になると先生以上のスキルを持つ子が増えてくるのではないか（親も学ぶ機会が必要） ・先生の ICT 機器の得手不得手がある。まずは慣れてほしい。 →町内 P T A で行った G I G A に関する意見交換会で出された項目を共有したい。 ・ICT の活用により、学校に行くことができない子どもの学びの保障が実現できる。そうした体制を早く整えてほしい。 ・親の ICT 環境と子どもの使い方に影響する。ICT に日頃から接している親は、なにがどこまで危険なのか 	<p>タブレット端末が導入されましたが、ハード面だけではなくソフト面も含めて環境整備が必要と考えます。芽室町教育委員会 I C T 整備活用指針について、引き続き課題の整理、展望等について調査を進めます。</p>

	<p>がわかるが、不得手な親はわからない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月に文教懇談会の研修でGIGAスクール構想について研修会を行ったが、各学校によって進捗の差があると感じた。農村地域では今後通信環境が改善されることは承知している。 ・春から家庭に端末を持ち帰ることを踏まえると、共通の使い方マニュアルが欲しいと感じた。親が使い方を把握できていない状況がある。動画などでの説明があるとわかりやすい ・デジタル活用について一部不安の声もある。学齢に見合った使い方、紙との両立（入試等に備えた長文読解力がデジタルで養えるのかが不安）、子どもたちのコミュニケーションツールの多様化に家庭が対応しきれていない状況がある。リテラシー教育など、子どもも大人もスキルアップの場が欲しい ・アナログの行事が近年減っている。全校キャンプで、上の子どもが下の子どもの面倒をみる機会がない。少子化もあり、コミュニケーションが薄れていると感じる。 ・子どもが重い荷物を背負って学校に通っている。タブレット(デジタル教科書)になれば軽量化され、子どもの負担軽減になる。 ・子どもたちも色々な場面で活躍している。どの様に子どもたちを今後育てていくか、様々な変化にいかに対応させていくことができるのか、大変重要な側面と感じている。 	
部活動など	<ul style="list-style-type: none"> ・西中の部活動が限定されている話を聞く。(同じ中学校なのに興味のある部活動に参加できない状況) ・部活動に親が介入しすぎる。 ・子どもがしたいスポーツをのびのびさせてあげたい。 ・他学校と合同にしなければ継続できない。廃部にすると復活が難しい。 	令和8年度までを計画期間とする芽室町小中学校配置計画について課題解決の時間軸を意識しながら調査研究します。
スクールバス	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの停留場（6線13号）のスペースが狭い。車の通行も多く、安全性に問題である。 	安全性が確保できる対策を教育委員会とも情報共有していきます。

子どもの遊び場	・雨天時や冬季間、子どもの遊び場が無い	ご意見として伺い、今後の調査研究等に活用します。
修学旅行	・コロナ前、中学生は東京に行ったと聞いている。果たして都会でお買い物をしてることが、芽室町立学校の修学旅行として良いのかどうか疑問がある。町として、子どもたちに 学び取ってほしい意志が伝わる修学旅行を我が子には経験させたい。	ご意見として伺い、今後の調査研究等に活用します。
給食時間	・子どもから「給食の時間を長くしてほしい」とここに来る前に要望されてきた。おいしい給食だが時間がなくてお変わりができないのが残念とのこと。時間割の工夫で給食時間の延長は不可能か？東京に住む親戚の子の給食時間が長くなったと聞いていたので確認したかった。 ・（給食時間のことも含め）芽室町には子どもの権利に関する条例があるので、ぜひ子どもの声を聴く場を持ってほしい。	ご意見として伺い、今後の調査研究等に活用します。
書面にて	時代の流れを敏感に察知し、その流れに順応しながら進めてほしいと思っています。校区についても選択可能な地域を町民の声を聞き入れながら柔軟に対応していただけたらと思います。また、ＩＣＴ教育について、今後これからの未来、必要不可欠と思います。メリットとデメリットを先生も生徒も保護者も町もきちんと理解し丁寧に共有することが大切だと思います。その様な機会を提案していただきたいともっています。ＣＳについてはもっと周知しつつ参加しやすい工夫も必要かと思っています。ＰＴＡのＯＢＯＧへの声掛け等、重要かなと思っています。	ＩＣＴ環境整備については上記と同様。 ＣＳについては、引き続き調査を進めていきます。

意見交換会・会議名： 西小学校 P T A

- 開催年月日： 2022 年 1 月 12 日（大雪）
 ■開催場所： 西小学校パソコン室
 ■出席議員： 鈴木・常通・梶澤・立川（柴田欠席）
 ■参加者： 南館会長・平岡広報部長・大内研修部長・阿部校長・菅原教頭
 （合計： 9人）
 ■記録者名： 立川

テーマ	意見交換内容
厚生文教常 任委員会抽 出事業につ いて	<p><常通議員から委員会の取り組み状況や、CS、GIGA、校区などについて調査研究していく旨を説明></p> <p>（G I G A）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月に文教懇談会の研修でGIGAスクール構想について研修会を行ったが、各学校によって進捗の差があると感じた。農村地域では今後通信環境が改善されることは承知している。 ・<u>町内P T Aで行ったG I G Aに関する意見交換会で出された項目を共有したい</u> ＊春から家庭に端末を持ち帰ることを踏まえると、共通の使い方マニュアルが欲しいと感じた。親が使い方を把握できていない状況がある。動画などでの説明があるとわかりやすい ＊デジタル活用について一部不安の声もある。学齢に見合った使い方、紙との両立（入試等に備えた長文読解力がデジタルで養えるのかが不安）、子どもたちのコミュニケーションツールの多様化に家庭が対応しきれていない状況がある。リテラシー教育など、子どもも大人もスキルアップの場が欲しい ・中学生になると先生以上のスキルを持つ子が増えてくるのではないか（親も学ぶ機会が必要）

（西小P T A意見交換会会議録から抜粋）

5 厚生文教常任委員会の総括

(1) 子どもたちの学習環境整備について

厚生文教常任委員会では、今年度の政策課題（年間重点調査研究事項）として「子どもたちの学習環境整備」を掲げ、3つの課題を調査項目として取り組んできた。

- ① ICT 活用に向けての環境整備（ハード・ソフト両面）
- ② CS に係る町民周知及びボランティア受入れの体制整備
- ③ 年間出生数の減少による中長期視点での校区編成

そのうち、①ICT の環境整備については、新型コロナウイルス感染症対策として「GIGA スクール構想環境整備事業」の実現に緊急性が求められていることから、現地視察を実施するなど（令和3年11月）、調査を深めてきた。

今回の意見交換会では、「GIGA スクール」に関する事項について、保護者視点での期待や不安が多く見受けられ、改めて、町民の率直な思いや感想を実感できる貴重な機会となった。

また、少数意見として、部活動の悩み、スクールバスの停留所の整備、災害教育の充実、子どもの居場所に関する声があり、これらについては速やかに町（担当課）に実態を確認し、今後の取組みについて、議会内部で協議する。

なお、いただいた個々の意見については、次の手順で分類・精査し、議会が果たす役割と責務の視点に置き換えて整理した。

- 1 対応の分類（議会の視点）
 - (1) 短期的視点（緊急的対応）
 - (2) 長期的視点（計画的対応）
- 2 客観的視点での精査
 - (1) 事実確認（現場、現物、現実）
 - (2) 対峙の視点（違う立場の視点）
- 3 課題解決の要素整理
 - (1) ヒト・モノ・カネへの影響整理
- 4 解決策・対応策の確定

(1) 調査研究の要否

(2) 調査研究のスケジュール、手法、目標設定

その結果、厚生文教常任委員会として、今回の意見交換会を踏まえて取り組むべき事項を下記にまとめた。

なお、詳細については、次年度の政策課題として掲げる際に、改めて委員会内で協議・検討し決定する。

記

1 芽室町教育委員会 ICT 整備活用指針の調査について

GIGA スクールの実施に際し、現行指針が保護者の期待や不安を明確にさせる「拠り所」として機能するよう、その内容や展望について調査研究する。

2 芽室町立小中学校配置計画について

令和8年度までを計画期間とする現行計画について、課題解決の時間軸を意識しながら調査研究する。

なお、議会だより等を通じて、今後の取組状況を都度広報し、住民の皆さんとの情報共有に努めると共に、併せて広く意見をいただきながら芽室町の個性と特長が反映される「学習環境の整備」の実現を目指すものである。